

平成27年度 横浜市市民活動支援センター（自主事業）中間振り返り

事業実施団体名
特定非営利活動法人 アクションポート横浜
テーマ・事業名
<p>横浜市市民活動支援センター自主事業部門（補助事業：平成26年度～平成28年度）</p> <p>【テーマ】地域の課題解決に市民等が取り組むための支援を行う 「みんなで作る！『Spice+（スパイスプラス）』若者の参加による現場体験データベースの作成とマッチングと協働の仕組みづくり」</p>
事業概要
<p>若者がより社会課題を知り、地域への愛情を深められるように、レポーターとしてNPO活動に参加する機会を設け、そのレポートを26年度に作成したウェブサイトに掲載し、内容の充実を図る。より多くの方が活動体験に参加できる様に募集から体験までの流れをパッケージ化するとともに、情報発信とマッチングを行う。また、活動体験の受入れ団体間のネットワークを作っていく。</p>
事業進捗状況
<p>《サイトの機能アップ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート数の増《10月末までに31個（今年度目標：50個）》 ・より気軽にSPICE+と関わられるように、「気ニナル!」「応援スル!」などのボタンを設置。 ・プロボノに依頼しなくても事務局でレポートアップが可能となる管理用ページ作成。 ・スマートフォンにも対応可能となる。 <p>《レポーター》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポーター数の増《現在45名（今年度目標：40名）》 ・レポーター研修会を2回実施（第一回6/20 学生向け、第二回9/5 社会人向け） ・レポーター募集ページを開設 <p>《ページビュー》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ページビュー件数 12,136件（1日平均 約60件） ・サイトユーザー件数 3,968件（1日平均 約18件）
主な意見交換内容
<p>（委員）記事のクオリティによって、ウェブの閲覧回数を左右すると思っていたが、すごく良くできていた。写真を並べるだけではなく、思った以上に内容のあるページになっている。</p> <p>閲覧数の伸びが悩みということで、横浜経済新聞などに掲載してもらおうとのことだが、どんなことをアピールすることになるのか。この活動が、どのように一般市民に見えるようにしていくべきかを、どのように考えているか。</p> <p>（アクションポート横浜）地域にこんなに面白い活動があるということを若い人に知ってもらいたい。大学で普通に生活しているだけでは、このような情報には巡り会わない。まずは新聞等に掲載することで、スパイスプラスを知ってもらい、興味を持ってもらいたい。</p> <p>ターゲットを学生や若手社会人に絞っているが、口コミが一番参加率が高いと経験上わかっている。そのため、ウェブはフェイスブックなどでシェアしやすい形にしている。チラシやメディア</p>

も考えているが、まずはレポーターが自分自身の周囲の人に伝えられるようにしていきたい。

(委員) 受け入れる団体の変化は。団体が活動の質を高めていけば、もっと多くの人に参加してもらえるようになるが、ウェブにアップする段階での団体とのやり取りはあるのか。また、レポーターのスキルアップについてはどう考えているか。

(アクションポート横浜) 団体の活動に参加するにはどうすればいいのかといった問い合わせに対し、参加方法を示せない団体は結構多い。また、レポートにして伝える側としては、活動のイメージを具体的に伝えていきたいが、なかなか難しく、悩んでいる。

記事を書くことに対しては、スキルアップは行っているが、ボランティア活動に参加するスキルアップを目指しているのではない。興味がなかった人が書くなど、色々な声を載せていきたい。

(委員) 事業の対象者が、学生や若手社会人及びレポーターを受け入れる団体となっているが、団体までが事業の対象になっているとはまだ見えて来ない。団体が、プログラムを提示するのに苦労しているということだが、課題はそれだけではないはず。そういった課題を、知らせていくような取組が、その次の段階で必要になってくると思うが、その点をどう考えるか。

(アクションポート横浜) 団体の支援としては弱いと思っている。この事業では、まずは、若者の参加と団体をつなぐことを目的にしていきたい。

(委員) レポーターはレポートを書いて完結するのか。レポーターのその後の活動は広がっているのか。

(アクションポート横浜) レポーターを抱えるつもりはなく、どんどん活動を拡げて送り出していったらいいと思っている。

事業計画書

提案 事業 名	みんなで作る！「Spice+」(旧 市民活動百貨) ～若者の参加による現場体験データベースの作成とマッチングと協働の仕組みづくり
1 趣 旨 ・ 目 的	<p>◆活動参加の機会が少ない企業人や若者を主な対象とした現場体験を実施して見えた課題点</p> <p>1) 若者の活動も増えてきたが、社会課題に目を向けたアクションは少ない 若者を対象とした活動参加の裾野は広がってきたが、「楽しむ」だけの活動も増えている。若い世代が社会課題に気づき、団体や地域への共感を高める機会が必要である。</p> <p>2) 現場体験をより多く実施し、多くの人が参加できるように、仕組みづくりが必要 現場体験会で人材が定着する、という一定の成果は得られたが、現場体験の数は限られている。より多くの人が参加できるよう実施数を増やす仕組みづくりが必要である。</p> <p>3) NPOの活動の価値や意義の発信、埋もれている魅力ある情報の発掘・発信が必要 NPOの情報は多様なメディアで増えてきたが、活動報告にとどまり、「この活動の意義はどこにあるのか」、「社会課題をどのように解決しているのか」といった活動の価値の発信は少ない。また、共感を得られそうな魅力ある情報が埋もれているケースも多い。NPOの活動がより社会的に共感を得て、人材が定着していくために、NPOの価値を表現できる情報発信が必要である。</p> <p>◆活動体験と活動の価値を広く発信し参加できる仕組み(データベース)が必要</p> <p>以上の課題認識の下、若者がより社会課題を知り、地域への愛着を深められるようにレポーターとして活動に参加する機会を設ける。そのレポートにより、NPOの情報を掲載し、より多くの人が活動体験に参加できる情報発信・マッチングを行うデータベースおよびwebサイトを作成する。活動体験の受入団体間のネットワークを作り、市民活動を支える人材育成も行う。</p>
2 事 業 内 容	<p>(事業実施地域) 横浜市全域</p> <p>(事業の対象者) ○学生や若手社会人等を中心とした一般市民 ○NPOを中心とした市民団体・地域型企業 ○中間支援機関</p> <p>1、発信の担い手となる若者レポーターを育成し、多世代参加でデータベースを作る 学生や若手社会人向けにレポーター養成講座を実施し、若者がレポーターとなってNPOの情報を収集する。団体情報だけではなく活動の経緯や大事にしている思い、レポーターが現場で体験した際の体験談等も幅広く集める。</p> <p>2、体験活動データベースの作成:現場体験のパッケージ化により広くマッチングを実現 集めた情報を元に、より多くの人が活動体験に参加できるよう、募集～体験終了の流れをパッケージ化したデータベースを作成する。活動に共感を呼び、参加を後押しできるよう参加者目線での情報を掲載し、参加者とNPOのマッチング、多セクターとの協働を推進する。</p> <p>3、体験活動データベースによる情報発信:NPOの現場のリアルな声を伝え、社会的価値を高める データベースにはレポーターが集めた情報に加え、現場体験での体験談、マッチング事例も随時更新、蓄積し、発信していく。当団体と接点のある企業や大学との提携、既存メディアと連動し、活動の必要性や意義を伝え、NPOの社会価値向上に貢献していく。</p> <p>4、受入団体を中心とした団体間ネットワークの提供とノウハウの発信 受入団体に対しては蓄積した受入ノウハウを学び合う場、情報交換の場を定期的に作り、相互支援のネットワークを作っていく。場は公開し、様々な団体が参加できるようにする。</p>

5、対象者に合わせて以下のようなサポートを行う。

参加者

地域参加を望んでいるが具体的にどんなことができるかわからない個人や団体に対して、参加のきっかけづくりとしてサイトを活用してもらおう。参加申込後は事前事後のサポートをし、継続して団体やその他の活動に参加できるような環境作りをしていく。

レポーター

学生や若手社会人がレポーターとなり、様々な NPO の現場を体験できる機会や自分の思いをレポートにまとめる場を提供する。また、そうした若者が活躍できるような環境作りを行う。具体的にはレポート講習会で文章の書き方や NPO の現場へ行く心構えなどの実施、レポーターマニュアルやヒアリングシートなどのツールを使って安心して活動ができるようにしていく。

団体

人材の受け入れをしたいが、受入体制がなかったり、やり方がわからない団体も多い。レポーターの体験を通じて受入の経験値を積んでもらうことからはじめ、他の受入モデルの提示や受入のポイント提供など、より受入ができるようなフォローアップを事務局から継続的にしていく。

この書類は、横浜市市民協働条例第7条第4項の規定に基づき、一般の閲覧に供しなければなりません。

※この頁は、事業提案時に、横浜市市民活動支援センター自主事業実施要綱第1号様式にて継続希望「あり」とされた場合、又は前年度以前から提案を継続している団体のみ記入してください。

<p>3 事業計画 (事業経過)</p>	<p>◆2年目はデータベースの充実を目指して、レポーター・受入団体の数を増やして行く。また、受入団体間の横のつながりも作っていく。</p> <p>○活動レポーター養成講座及び定例会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動レポーター養成講座の参加者の募集及び実施。レポーター登録合計40名を予定。 ・定例会は毎月1回実施し、レポーター間の情報共有をはかる。 <p>○掲載受入団体の募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動体験の実施・登録をしてくれるNPO、団体の募集を行う。受入団体は合計50団体を予定。 ・受入団体がお互いに情報交換やノウハウの共有ができるように、情報共有の仕組みづくりを行う。 <p>○データベースの発信力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の発信先として企業や大学、既存メディアと連携し、閲覧数を増やす。 ・データベースチームでも定期的に会議（SNS上）を行い、より効果的な発信について検討していく。 <p>○参加者と団体のマッチング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動の参加者を募集し、参加者と団体のマッチングを行う。実施して出て来た参加者の声や団体の感想も収集し、それらの情報もWEBサイトに掲載していく。また、受入団体の事前事後のフォローアップも行い、活動内容のブラッシュアップや、新たな体験コースづくりも支援する。 <p>○現場ツアーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WEBに掲載されている団体への現場ツアーを開催する。なかなかWEBサイトを見ているだけでは参加に踏み出せない若者向けにイベント的に開催し、WEBサイトの活用方法やNPOの現状を知ってもらう。 <p>○事業継続運営に向けた検討</p> <p>事業を継続していくために収入の確保や支出を抑える工夫点などの検討を行う。</p>
<p>4 横浜市市民活動支援センター事業を担う他の団体との協力・連携</p>	<p>市民活動支援センター事業と一体的な事業運営となるよう、運営団体及び自主事業団体と以下のような連携・協力をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆支援センター事業全体の共通のビジョンや各事業の目的を議論し共有する。 ◆支援センターに社会貢献の相談に来る企業やボランティア未経験の方々に対して、情報や活動の体験の場を提供する。 ◆支援センターの各事業や自主事業団体と、必要に応じて連携することで、事業全体に広がりを持たせることができ、団体間の交流と連携を進める。 ◆この事業で得たノウハウや実績を支援センターや利用団体と共有できるようにする。

※この頁は、事業提案時に、横浜市市民活動支援センター自主事業実施要綱第1号様式にて継続希望「あり」とされた場合、又は前年度以前から提案を継続している団体のみ記入してください。

		具体的な事業内容 (事業結果)	期待される効果	事業の総予算 (決算) 額
				横浜市補助金額
<p>5 具体的な事業内容、期待される効果及び予算等 (既に本事業による取組を実施している場合、実施済みの年については事業結果及び決算を記入)</p>	H26 年度	<p>【プロジェクトの基盤整備に注力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動百貨プロジェクトの立ち上げ ・活動レポーター養成講座の実施及び受入団体の募集 (登録 28 名、団体 7 団体) ・活動レポーターによる事前体験実施及びWEBサイトのオープン ・一般向けの体験活動の参加者募集と実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者がレポーターとして参加し、実際の NPO の現場を取材することで、社会課題に気づき、地域で活動する人材を育成できる。 ・活動体験を通じて、実際に現場で人や地域に触れ合うことで、参加者自身が気づきや学びを得られる。 ・団体間の情報やノウハウの共有の場を設けることで、受入スキルの向上と、より多くの人を巻き込むコーディネート力が向上する。 ・NPO の活動の価値や社会課題、埋もれた地域情報を WEB で発信することで、幅広い層の共感を高め、NPO の社会的価値が向上する。 	2, 229, 938
				2, 000, 000
	H27 年度	<p>【データベースの充実と受入団体間の強化に注力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動レポーター養成講座の実施及び受入団体の募集 (登録 40 名、団体 50 団体) ・受入団体間の情報共有の仕組み作り ・WEBサイトの運用 ・体験活動の参加者募集と実施 ・発信先として企業や大学の開拓、既存メディアとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい活動体験のマッチングシステムにより、多くの市民が NPO で活動する機会が増える。また、団体の担い手の発掘と育成にも貢献し、団体の活性化につながる。 ・団体間のネットワークの構築により、悩みやノウハウを共有し合う相互支援の仕組みができる。 	2, 192, 600
				1, 900, 000
	H28 年度	<p>【データベースの質の向上と事業継続に向けた営業活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動レポーター養成講座及び受入団体の募集 (登録 80 名、団体 100 団体) ・受入団体間の情報共有の仕組み作り ・体験活動の参加者募集と実施 ・発信先として企業や大学の開拓、既存メディアとの連携 ・自立運営に向けた営業活動及び組織づくり 		2, 433, 800
				1, 750, 000

(第4号様式)

事業収支予算書 (平成27年度)

【収入】

(単位:円)

項目	金額	説明
横浜市市民活動支援センター事業補助金	1,900,000	
団体負担金	172,600	
現場ツアー参加費	10,000	500円×20人
WEB広告収入	100,000	20,000円×5コマ
活動体験参加費	10,000	1000円×10回
合計	2,192,600	

【支出】

項目	金額	説明(使途、積算根拠等)
人件費(事業責任者)	900,000	15,000円×5人日×12カ月
人件費(事業担当者)	780,000	13,000円×5人日×12カ月
交通費	130,000	1,000円×130回
チラシ印刷費	30,000	一式
WEBサイト作成費	125,000	一式(サーバー代、メンテナンス費等)
ライター講習講師代	75,000	15,000円×5人分
現場ツアー謝金	30,000	団体謝金等
消耗品費、通信費 一式	74,600	一式
横浜市市民活動支援センター内スペース使用料	48,000	@4,000円×12か月
合計	2,192,600	

この書類は、横浜市市民活動推進条例第12条第4項の規定に基づき、一般の閲覧に供しななければなりません。

SPICE+活動報告

2015/10/26(月) @市民活動支援センター



特定非営利活動法人
アクションポート横浜



実際のサイトはこんな感じ





どんな人たちでつくっているのか

レポーター《45人》

学生、20-30代社会人



事務局

アクションポート横浜



データベースチーム《16人》

社会人プロボノ



レポート先

横浜周辺のNPO・地域団体



レポートができるまで



活動先決定

活動体験

レポート作成



今年度上半期の成果①

《サイトの機能アップ》

- レポート数増《10月末までに**31個/50個**（今年度目標）》
- ボタンを設置。より気軽にSPICE+と関われるように。
- 事務局でのレポートアップを可能に。
- スマートフォン版サイト対応

A screenshot of a web form interface. It features a list of items, each with a checkbox and a button. The first item has a checkbox with a checkmark and a button labeled '気ニナル!' (Gininaru!). The second item has a checkbox with a checkmark and a button labeled '応援スル!' (Ouenjōsuru!). The third item has a checkbox with a checkmark and a button labeled 'ウフフ!' (Ufufu!). The numbers 3, 4, and 8 are visible next to the checkboxes, likely representing counts or values. The background shows a faint illustration of a cityscape.

今年度上半期の成果②

《レポーター数増（現在45名（目標40名達成！！））》

■レポーター研修会を2回実施

第一回6/20 学生向け、第二回9/5 社会人向け

■レポーター募集ページを開設



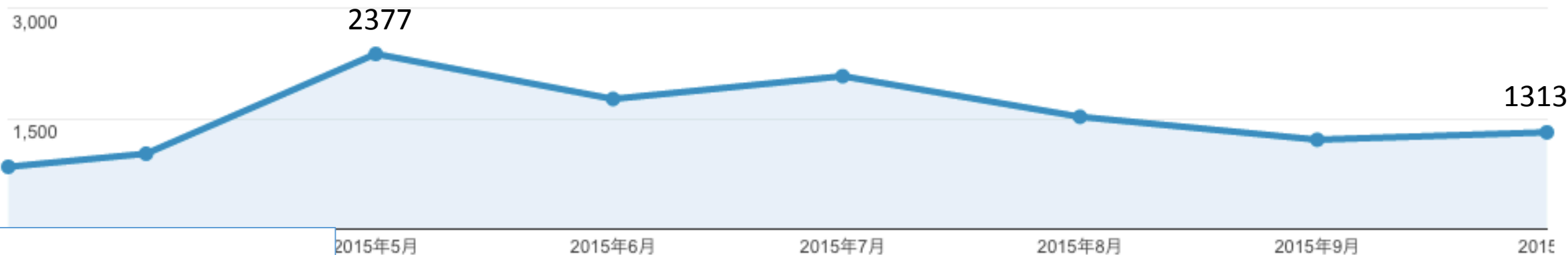


今年度上半期の成果③

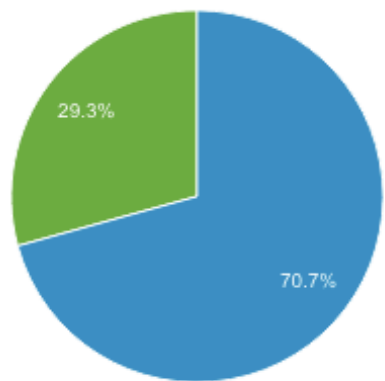
ページビュー数 ▼ 対 指標を選択

時間別 日 週 月

● ページビュー数



■ New Visitor ■ Returning Visitor



ページビュー(トータル): 12136 (1日平均 約60)
ユーザー(トータル): 3968 (1日平均 約18)



今後の課題

■サイトを見てくれる人を増やす。

→新チラシを制作、配布

→ヨコハマ経済新聞に記事を掲載してもらう

→活動先にSPICE+のPRステッカーをプレゼントして、事務所等に貼ってもらう。

■活動に参加してくれる人を増やす。

→今後もレポート数を増やして、選択肢を増やしていく。



今後の展望

■サイトの機能向上

→地図を用いた検索ページ

→レポーターの自己紹介ページ

■ツアーの開催

→現場体験ツアーを年明けに実施。

(主に学生向け。これまでのレポート先をめぐり体験をする。)



今後の展望

■掲載団体のネットワークづくり

→団体数が増えてきたので実施

→現在、意見募集中。WEB上とリアルな場と両方になりそう。

■継続運営に向けて

→現在、gooddoによる資金獲得を実施。

→その他の資金獲得方法を検討中。



ご静聴ありがとうございました。



@spiceyokohama



www.facebook.com/SpicePlusYokohama

